

ひまわり



医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。

在宅医療における多職種連携の推進(第4回在宅医療推進チーム会議)(2/2)



在宅医療連携シートについてチームメンバー全員で意見交換しました。様式の見直しや記載対象者の拡大などのご意見を頂きました。

話し合いの後、ささやかな懇親会を行いました。

平成27年度最後の在宅医療推進チームが2月2日に開催されました。当初1月26日の開催予定でしたが、大雪の為、1週間遅れて開催する事になり、急な変更の為、ご出席できなかった方も多くみられました。会議では、これまでの活動のまとめをご報告させて頂き、その後在宅医療連携シートについて意見交換して頂きました。



これまでご協力頂いた皆さんです。本当に有難うございました。これからもよろしくお願い致します。

在宅医療連携シートの活用状況(2月20日現在)

在宅医療連携シートの活用状況

〈各医療機関の記載状況〉

7医療機関 59名記載(2/20現在)

搬送時活用された件数 10件 活用できなかった件数 2件

〈関係職種の声〉

医師:緊急時に対応できないことが多い(診療中、夜間、休日など)。患者様の情報を事前に記入する事が出来、また、受入医療機関も情報があるのとないとでは全然負担が違うと思う。

ケアマネ:記載に際しては、医師から問い合わせがあったりしている。自分達も患者様の医療的な情報をシートを通して知ることができとても助かっている。在宅医療を受けておられる方だけでなく、急変の可能性のある方にも書いて頂きたい

訪問看護師:途中から訪問看護を利用される場合、連携シートをコピーして頂くと、必要な情報が得られ助かっている

療連携シート

医療機関(診療科目)	事業所名	担当名	電話番号	備考(連携先)
鹿児島県立総合医療センター				
鹿児島県立病院				
鹿児島県立中央病院				

◎在宅医療を始めた方の情報を主治医・ケアマネ・家族が共同で作成し、冷蔵庫の中に保管し、緊急時に救急隊が連携病院に持っていきます。

ようしくお願い致します。

記載医師サイン
本人または家族のサイン

※記入欄 ※ 備考欄 ※ 連携先は必ず記入してください

▲在宅医療連携シートはかみ取り型が、必要に判断した場合は、医師記載部分に二重線を記入し、本人またはご家族へ渡します。本人記載部分については、本人又は本人の同意を得てご家族またはケアマネジャー等に記載し、お持ち帰りに入れます。

▲シートを付与された医師は、在宅医療推進支援室(〒996-5300)にて返送請求書までお送りください。

※このシートは、在宅医療推進支援室が作成したものであり、印刷してご利用ください。



住み慣れた地で 最期まで暮らす

在宅医療 推進県民セミナー

住み慣れた地域で、安心して自分らしい暮らしを最期まで続けたい。そのような地域づくりを考える「在宅医療推進県民セミナー」が2、3月、鹿児島県内6地域で開催されます。地域の在宅医療の支援体制を整備し、医療・介護・福祉の多職種が連携した地域包括ケアシステムの構築を進める鹿児島県医師会と都市医師会の主催、南日本新聞社共催。今回は、2月11日、3月4日にさつま町と霧島市で開催されたセミナーの概要を紹介します。

講演「“生涯活躍のまち”で描く地方創生」



講師 / 社会福祉法人孝子園理事長
雄谷 良成氏

金沢大学卒業後、豊年園科習力院(旧二カ所)創設、厚狭福祉会(現厚狭福祉会)、財団法人ファンタジーセンター(旧二カ所)創設、医療介護地域創生センター(現医療介護地域創生センター)創設、社会福祉法人孝子園理事長。

私の祖父は住職で、戦災孤児を引き取って育ててくれました。その中には知的障害者もいたため、社会福祉法人を立ち上げました。私もそこで一緒に育ったので、家族同様に暮らしていた彼らが社会から放り出されていく現状はおかしいと思ひ、福祉を学びたいという事業が開始しました。

その二つがコミュニティ施設コア施設です。サービスマンとして高齢者住宅と障害者施設、そして学生住宅が共存し、日用品を扱う売店や入浴施設などは住民らが運営、共同施設は自由に使えます。学生は月9割時間という条件で、温泉街に投立するボランティアをする条件を付けました。すると、高齢者から障害者、若者が集うコミュニティが生まれました。

シンポジウム 「住み慣れた地域で安心して生活できる地域を目指して」

- 司 長 / 松下 兼大氏 (薩摩郡医師会在宅医療推進事業運営委員長)
- パネリスト / 中村 慎一氏 (さつま町介護保険課課長)
- 今軍 晴夫氏 (住居代表)
- 小丸 みさち氏 (薩摩郡医師会在宅医療推進コーディネーター)
- オープナー / 雄谷 良成氏 (孝子園)



松下 薩摩郡医師会では2013年10月から、在宅医療推進地域支援事業を開始し、様々な取り組みを行っています。「住み慣れた地域で安心して生活できる地域を目指す」は、どうすればいいのかわかりません。

中村 さつま町は、高齢化が進み、介護認定者の高齢化が顕著で、認知症の高齢者の増加などの課題があります。そこで15年から、地域包括ケアシステムを構築し、在宅医療を推進し、高齢者を地域で見守り、高年齢を推進しています。

今軍 在宅医療を進めるためには、地域包括ケアシステムを構築し、在宅医療を推進し、高齢者を地域で見守り、高年齢を推進しています。

2月11日薩摩農村改善センターで開催された鹿児島県医師会と薩摩郡医師会との共同開催された在宅医療県民セミナーの様子が3月19日の南日本新聞に掲載されました。

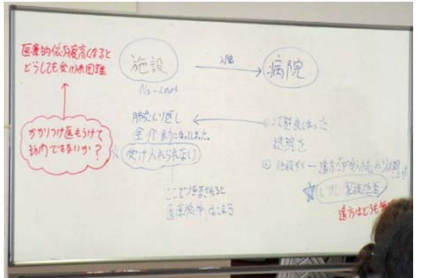


健康チェックコーナーも好評でした



約250名の方にご参加頂きました。

在宅医療における人材育成(事例検討会)(1/29)



テーマ:「福祉施設から入院されたが、施設への退院が困難だった事例」～福祉施設の現状と今後の課題～施設側、医療側それぞれの事情を知ること、思い違いに気づかれました。お互いの今後の努力すべき目標も見えたのではないのでしょうか? 31名の方にご参加頂きました。

平成27年度 鹿児島県医師会 在宅医療提供体制推進事業活動報告



～住み慣れた地域で尊厳をもって暮らし続ける為に～

平成28年3月6日
公益社団法人
薩摩郡医師会



3月6日(日)県医師会館に於いて、平成27年度の活動報告を行いました。午後からは、県民セミナーが行われ、松下事業運営委員長がシンポジストとして登壇されました。県民セミナーの様子は、3月30日南日本新聞に掲載予定です。

平成28年度からは、川内市医師会と共通の内容については協力して、取り組んで参ります。今後とも皆様のご指導、ご協力よろしくお願い致します(支援室)